

病害虫情報 No. 2

茨城県病害虫防除所

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率が県内の一部で高くなっています。

県西地域の一部(筑西市など)では、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス(RSV)保毒虫率が高くなっています。これらの地域では、平成21年の水稻栽培で本病の発生が懸念されますので、今後の情報に注意してください。

[現在の状況]

平成20年8月に、県西地域の水稻において縞葉枯病の発生が確認された。

平成20年10月から11月にかけて、県内全域で稲刈り後の再生稲(ヒコバエ)を調査したところ、県西地域で縞葉枯病の発病株率が高い圃場がみられた(図1)。

平成21年3月に、県西地域でヒメトビウンカの越冬幼虫のRSV保毒虫率を調査したところ、全体としては平年並からやや高い程度であったが、局所的に保毒虫率が高い地点があった(表1)。

[防除対策]

ヒメトビウンカはイネ科雑草で越冬するので、畦畔や圃場周辺の除草を徹底する。

ヒメトビウンカは春先になると麦畑へ移動し、そこで増殖した後に水田へ侵入するので、麦畑に隣接する圃場では注意する。水稻の生育初期の感染を防ぐため、苗箱施薬によるヒメトビウンカの薬剤防除を実施する。また必要に応じて本田防除(6月下旬)を行う。

[補足事項]

ヒメトビウンカのRSV保毒虫率が高く、かつ生息密度が高い場合、縞葉枯病の発生、被害が拡大する。

栃木県では、小山市、栃木市などでヒメトビウンカのRSV保毒虫率が高く、南部を中心に発生拡大が懸念されている(栃木県 植物防疫ニュース 平成20年12月17日)。

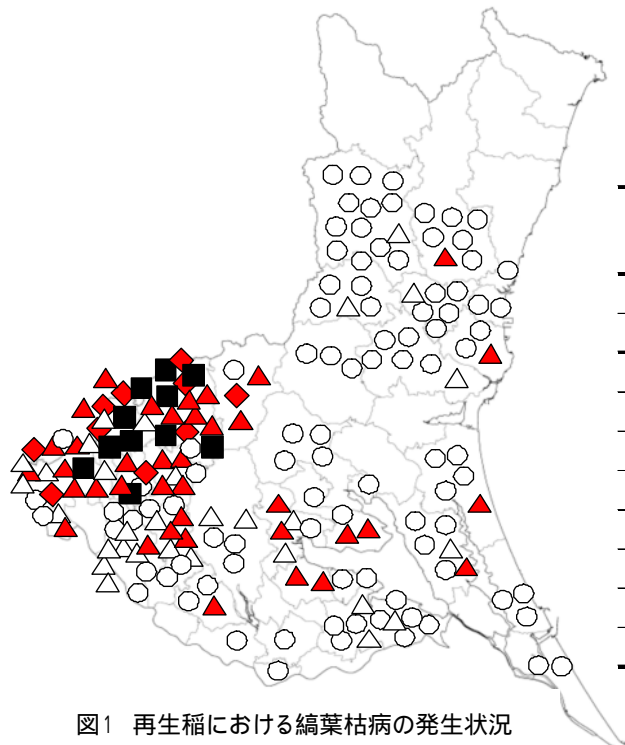


図1 再生稲における縞葉枯病の発生状況

○ : 発病なし △ : 発病株1%未満 □ : 5%未満 ◇ : 10%未満 ● : 10%以上

表1 ヒメトビウンカ越冬世代のRSV保毒虫率

採取地点名	供試虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	平年値 (10年間平均)
つくば市大形	243	0.0	0.6
結城市大谷瀬	96	3.1	2.0
結城市山川新宿	47	4.3	-
筑西市野田	100	11.0	-
筑西市野殿	59	20.3	-
古河市尾崎	43	0.0	-
古河市釈迦	110	1.8	-
常総市中妻町	74	4.1	-
常総市平八新田	80	0.0	-
八千代町沼森	192	2.1	-